

## レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第35回幹事会 議事要旨

- 1 日 時：令和8年4月20日（月）11時00分～11時50分
- 2 場 所：オンライン（Zoom）
- 3 出席者：寶（会長）、甘利（副会長）、岡島（副会長）、面、【遠藤】  
オブザーバー：林（I-レジリエンス）  
陪席者：松本（防災科学技術研究所）、小林（〃）、石塚（〃）、小松原（セコム）、  
永松（筑波大学）、増田（〃）、大徳（〃）、酒井（〃）、根本（〃）

（敬称略，【】欠席）

### 4 議事

- ・筑波大学の事務体制の変更について

岡島副会長より説明があり、新任の永松氏（システム情報エリア支援室長）、大徳氏（同支援室大学院教務係長）より挨拶があった。

### I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

#### 【審議事項】

- (1) 有識者会員の推薦について

岡島副会長より、資料1に基づき説明があり、林春男氏の有識者会員としての参画が承認された。

- (2) 幹事会・運営委員会等の体制について

岡島副会長より、資料2に基づき体制の更新箇所について説明があり、承認された。

- (3) 令和8年度年間活動計画について

岡島副会長より、資料3に基づき、前回運営委員会で承認された計画からの更新箇所について説明があり、承認された。

更新内容は以下のとおり。

- ・6月16日（火）午後：防災科学技術研究所にて総会・見学会を開催
- ・10月2日（金）午後：Tsukuba Global Science Week 2026内でリスクセッション企画を開催

- (4) その他

特になし。

#### 【報告事項】

- (1) キャリアマッチングデー2026について（5月25日開催）

岡島副会長より、資料4に基づき開催概要の説明があり、併せて特別会員であるレジリエントライフプロジェクトより、三菱総合研究所が参加することについて報告があった。

- (2) 2025年度R2EC・巨大災害研究会合同シンポジウム開催報告（3月3日開催）

岡島副会長より、資料5に基づき、開催報告があった。

(3) その他

岡島副会長より、関西国際大学の特別会員入会について先方と協議した結果、特別会員によらない形で連携を継続することとなった旨の報告があった。

【意見交換事項】

(1) 令和8年度シンポジウムについて

岡島副会長より、資料6に基づき説明があり、テーマについて意見交換が行われた。本日の意見を参考に、筑波大学において継続検討し、改めて共有することとされた。

主な意見は以下のとおり。

- ・大都市の防災の在り方について。4月10日に日本学術会議で承認された「メガシティの防災力強化」に関する提言を踏まえ、関東開催では首都直下地震、関西開催では南海トラフ地震を扱うなど、シリーズ展開も考えられる。
- ・災害時におけるサイバーセキュリティおよび災害情報の活用に関するテーマ。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【審議事項】

(1) その他

特になし。

【報告事項】

(1) TGSW2026 セッション企画について（10月2日開催）

面委員および岡島副会長より、資料7に基づき、採択決定の報告および概要説明があった。併せて、コンソーシアム参画機関に対し、ポスターセッションへの参加依頼があった。詳細は後日連絡することとされた。

(2) 3月修了者および4月入学者について（協働大学院関連）

面委員より、資料8に基づき、協働大学院教員を主指導とする学生が増加傾向にある旨の報告があった。

また、昨年度より、厚生労働省「教育訓練給付金」の対象となり、博士後期課程の社会人が給付を受けられるようになったことについて情報共有があった。

関連して、以下の質疑応答があった。

【甘利副会長】社会人が修士課程に入学する場合、つくばへの通学頻度はどの程度か。

【面委員・岡島副会長】博士課程と比べると通学頻度は高いが、授業によりオンラインやオンデマンド対応を行っているほか、東京キャンパスの授業履修も可能。また、博士取得を目標とする場合には、学士卒であっても審査により修士修了相当と認められれば、博士課程の受験が可能。

(3) その他

- ・学位プログラムオープンキャンパスについて（4月26日開催）

面委員より、資料9に基づき、学位取得に関心のある職員・社員に対する周知依頼があった。

以上